

# 愛&ハート

## 2025年新春のごあいさつ

- ◆社会福祉法人全電通近畿社会福祉事業団 理事長
- ◆愛の家 施設長 ◆あいハート須磨 施設長 ◆あいハート離宮前 施設長

2025 January

274号

### [愛の家]

- ◆きぼう
- ◆かがやき
- ◆工房みさき
- ◆グループホームみさき

### [あいハート須磨]

- ◆特養
- ◆デイサービス
- ◆居宅介護支援事業
- ◆あんしんすこやかセンター
- ◆厨房
- ◆脳梗塞リハビリステーション神戸須磨

### ◆脳梗塞リハビリステーション神戸須磨

上肢へのアプローチが歩行の改善に  
必須な脳出血右片麻痺のリハビリ紹介

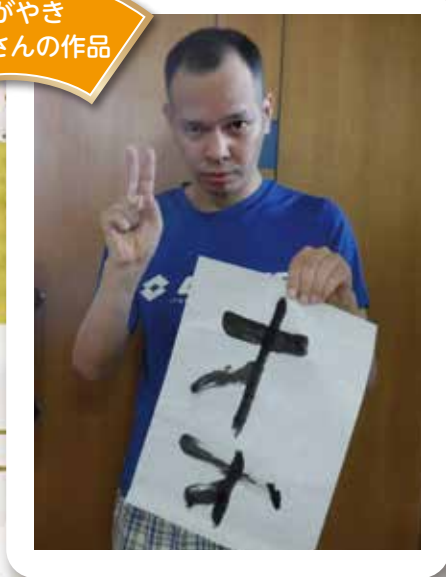
きぼう  
利用者さんの作品



あいハート離宮前  
利用者さんの作品



かがやき  
利用者さんの作品



デイサービス  
利用者さんの作品



日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	





社会福祉法人  
全電通近畿社会福祉事業団  
理事長

橋本 寿樹

## 事業計画の達成に向けて

新年あけましておめでとーござ  
います。

皆さまにおかれましては、お健  
やかに新年をお迎えのこととお慶  
び申し上げます。

日頃の当法人に対するご支援・  
ご協力を賜り厚く御礼申し上げま  
す。

昨年も、更なる法人運営の発展  
強化を図るために、各施設との一  
体的な運営による総合力の発揮に  
向けて取り組んできました。その  
一環として、各施設の会議等に理  
事長・副理事長・事務局長が積極  
的に参加するとともに、各施設の  
職員との面談等を実施し、課題認  
識の共有化および改善に努めてき  
ました。制度面においては将来的  
な人材の確保の観点から、定年制  
度の見直しに着手して、関連規程  
の改正ならびに役職定年規程の整  
備を行うこととします。収支面に  
おいては、新型コロナウイルスの



クラスターの発  
生による影響を  
受けた施設もあ  
りましたが、中間  
期決算では、各施  
設とも概ね計画どおりに推移をし  
ているところです。

今年「愛の家」において、日中  
活動施設（作業棟）の建設や大阪府  
からの要望を受けて、児童施設「き  
ぼう」の（10室）増床工事がスタ  
トします。また、「特別養護老人ホ  
ームあいハート須磨」が設立から  
30年の節目を迎えます。年度末に  
向けて、人材確保・育成等、課題は  
多くありますが、着実に前進して、  
当初目標の達成に向けて取り組ん  
でいきます。

今後も安定した経営基盤を確立  
するとともに、地域福祉の拠点と  
して更なるサービスの充実、発展  
に努めて参ります。労働組合が設  
立した趣旨を忘れることなく働く  
人を大切にするバランスのとれた  
組織・体制づくりを目指してい  
くこととします。

引き続き当法人へのご理解・ご  
協力をお願い申し上げますと  
も、皆様のご健勝とご多幸をお祈  
り申し上げます。挨拶にさせてい  
ただきます。



愛の家 施設長  
上野 隆幸

新年あけましておめでとーござい  
ます。皆様におかれましては、穏やか  
に新たな年をお迎えのこととお慶び  
申し上げます。

日頃は愛の家の施設運営にあた  
り、多大なご支援ご協力をいただき  
大変感謝しております。

昨年は、夏祭りや草刈り、運動会と  
愛の家イベントに多くの方々にご参  
加いただきました。この場を借り改  
めてお礼申し上げます。

さて、2025年の干支は「乙巳  
（きのとみ）」成長と結実の時期であ  
り、これまでの努力や準備が実を結  
び始める時期を示唆しています。本  
年は、愛の家にとっても中期3か年  
計画の総仕上げの年であります。こ  
れまでもご紹介してきましたが、成  
人部における職任分離の観点からの  
作業棟新築工事と児童部の定員拡大  
と環境整備を目的とした本棟増築工  
事がいよいよ始まります。工事完成  
は2025年内を予定していますので、  
完成の際には皆様にもお披露目



を行いたいと考え  
ています。是非ご  
来所いただきたく  
と願います。

これらのことか

ら、愛の家にとって本年は大きな転  
換期となります。これまで以上に  
日々のよりよい支援への取組み、安  
定した経営の確保、老朽化した設備  
の整備等を進めていかななくてはい  
けません。これらを進めるには課題も  
多々ありますが、一番の課題は、人材  
確保と育成・定着であります。永遠  
の課題とも言えますが、この課題解  
決の糸口として、昨年から法人本部  
の協力のもとエンゲージメントサー  
ベイを開始しました。職場が抱える  
課題を見える化・共有を行い、その課  
題解決に向け職員全員で取り組む。  
この取組みを通し自分自身も成長で  
きると考えます。愛の家の人材を人  
財と捉え、どこよりも明るく、楽しい  
魅力ある人が集まる施設となるよう  
取り組み、本年が大きな実（白）を結  
ぶことができるような一年にしてい  
きますので今後とも益々のお力添え  
をよろしくお願いいたします。

結びに、皆様にとって幸多き素晴  
らしい年となりますことを心から祈  
念申し上げます、新年のご挨拶いたし  
ます。



あいハート須磨 施設長  
高岡 順二

新年明けましておめでとうござ  
います。

皆様におかれましては、お健や  
かに新しい年をお迎えのこととお  
慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、元旦に  
能登半島地震が発生し多数の人命  
が奪われ、建物の倒壊や火災等、多  
大な被害をもたらしました。復旧  
は進んでいるものの、現在も避難  
所での生活を余儀なくされ不便が  
続いていると聞きます。30年前の  
阪神淡路大震災で被災したことを  
思い出しますが、改めて自然災害  
の恐ろしさを感じることも、予  
見が出来ず防ぎようのない事態に  
もどかしさも感じます。

高齢者施設や障害者施設では昨  
年4月に事業継続計画(BCP)の策  
定が義務付けられました。自然災害  
や感染症等の緊急事態が発生した場  
合でも介護サービスを安定的に継続  
させること、仮に中断した場合であ  
っても可能な限り短い期間で復旧さ



せることを取り決  
めた指針や手順を  
示した内容となっ  
ています。

あいハート須磨

をはじめ各施設でも計画を策定し  
ていますが、実際の災害とは異な  
る状況も見込まれることから、こ  
の計画を如何に機能させるかがポ  
イントとなります。特養では年2  
回の研修及び訓練(シミュレーシ  
ョン)を行います。普段から災害  
に対する意識を向上させること、  
様々なシチュエーションを想定し  
た訓練を行うことや他施設との連  
携等を繰り返すことで、実際に緊  
急事態が発生した場合でも迅速か  
つ適切に対応できるように努めて  
いきたいと思っています。

さて、今年には阪神淡路大震災発  
生から30年となりますが、同時に  
あいハート須磨も開設30周年の節  
目を迎えます。これまでの振り返  
りと新たな目標に向けての記念イ  
ベント等を実施し、ご利用者、ご家  
族の皆様そして職員たちと一緒に  
祝いたいと考えています。

結びになりますが、本年が皆様  
にとって幸多き年となりますこと  
を心から祈念申し上げます、新年のご  
挨拶と致します。



あいハート離宮前 施設長  
古崎 徹

新年あけましておめでとうござい  
ます。

旧年中は、あいハート離宮前の運  
営に格別のご高配を賜わり厚く御礼  
申し上げます。

さて、全世界を震撼させた新型コ  
ロナウイルスが2類相当から5類に  
変更され、「アフターコロナ」や「コロ  
ナ明け」、「インバウンド需要の回復」  
という報道を目にすることも多くな  
り、少し明るい兆しが見えてまいり  
ましたが、まだまだ高齢者にとって  
は脅威となる感染症ですから、十分  
な感染対策を講じながら一歩一歩着  
実に行事やアクティビティーの回復  
を目指しているところです。

昨年は、春には新しくなった神戸  
ポートタワーや明石海峡大橋の見  
学、秋にはリニョールしました須  
磨シーワールド(旧須磨水族園)や須  
磨離宮公園のバラ園にお出掛けいた  
だくなど、外の空気に触れていただ  
く機会を設けることができました。  
ホーム内のアクティビティーで



は、陶芸教室やア  
ロマ教室、ハンド  
マッサージ、音楽  
療法、書道サーク  
ル、ドッグセラピ

ーなど、感染リスクの低いものから  
順次再開をしまして、ご入居者様の  
日常の生活が色鮮やかなものとなり  
ますように尽くしてまいりました。

また、12月には地元の小中学生を対  
象とした福祉の体験学習の特別授業  
を2日間にわたって実施しましたと  
ころ計65名の児童が参加され、後日、  
特別授業のお礼として歌の披露をし  
てくださるなどの交流会を約4年ぶ  
りに催すことができ、ささやかでは  
ありますが地域への貢献を果たすこ  
とができました。

しかしながら、昨年4月までの1  
年間に新型コロナウイルスへの感染  
により命を落とした人が約3万2千  
人で、その大半が高齢者であり、季節  
性インフルエンザの15倍の脅威であ  
るとの報道がありました。高齢者施  
設では依然として気が抜けない状況  
にありますので、職員の精励と英知  
を集結して一層の感染対策を講じつ  
つ感動が得られるようなホスピタリ  
ティーを目指してまいりますので、  
変わらぬご指導とご鞭撻をお願い申  
上げます。





## 愛の家

### きぼう

◆ 部門長 川崎 明美



謹んで新年のご挨拶申し上げます。昨年も皆様のご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、昨年は民生委員の方々にご協力いただきクッキング活動を更に充実することができました。毎週の学習活動では、ボランティアの先生にお力添えいただき子ども達の学び楽しさや学習



意欲を育むことができました。子ども達が目を輝かせ、熱心に取り組む姿を見て、地域の方々との結びつきの大切さを改めて感じる1年でした。

また、子ども家庭庁が発足され2年が経過し、昨年度には意見表明等支援事業が制度化されました。これまでよりもっと施設で生活している子どもの気持ちや意見を大切に、子ども一人ひとりの声を聴いて、子ども達にとって最もよいことは何かということ、私達施設職員は今まで以上に考えて行動しなければならぬと強く感じています。

2025年は巳年です。蛇のイメージから、再生と変化を繰り返しながら物事を安定させていくという意味合いを持つ年と言われているそうです。今年、児童部は増築工事を行います。より良い環境を提供し、子ども達が安心して安全に過ごせるよう支援してまいります。子ども達を多くの人に温かく見守っていただきながら、目標や夢を持って、明るく元気に過ごすことができるよう職員一同一丸となって取り組ん

でまいります。

末筆ながら、皆様のご多幸とご健康を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

### かがやき

◆ 部門長 山本 裕之



新年あけましておめでとうございませう。皆様におかれましては健康やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は施設運営にあたり皆様方のご理解とご協力を賜りました。改めて感謝申し上げます。

さて、昨年4月に障害福祉サービス等の大幅な報酬改定がありました。その内容について一部紹介いたします。障害者虐待防止措置や身体拘束の適正化等、必要な基準を満たしていない場合に減算が導入されました。対応としては、見直しにおける指針や体制の整備等を行い、第3者委員の方々にも協力いただきながら取り組んでいます。

また、令和8年度から義務化さ



れる取り組みとして、利用者の地域移行を推進するための取り組みが今年度から努力義務化されました。その内容として、地域移行担当者の選任、意向確認の記録や意向を踏まえた個別支援計画を作成すること等、意向確認マニュアルの作成が必要になり、取り組みがなされていない場合は減算となります。

その他、施設入所定員の見直しを実施しやすくするために基本報酬が改定され、利用定員が10名ごとの設定（以前までは20名ごと）となりました。入所施設を減らし地域移行を推進していく方向性が、より顕著にあらわれたと感じる改定内容でした。

しかしながら、入所施設の必要性がなくなつたわけではありません。現に「かがやき」の入所者数は満床ですし、入所待機者リストには数十名の待機者が記載されています。必要なことは、長期にわたり利用者を施設に滞留させないことです。そのためには協力機関との連携、職員の専門性の向上、組織的なバックアップが必要不可欠となります。これらを踏まえ、職員一人ひとりが役割を理解し、責任ある言動をとり、取り組みを推進していく次第です。

結びになります。本年が皆様にとって幸多き年となりますことを心から祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。

## 工房みさき

◆副施設長 渡會 幸喜



新年明けましておめでとうございます。皆様には健やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年は令和6年度障害福祉サービス等報酬改定において大

な動きがありました。多くの問題を含んでいることに加え、終わりの見えない「物価高騰」と「職員不足」の問題も重なっていると実感しています。

とくに、就労継続支援B型では「利用者6人に対して職員1人」という新たな支援体制基準が設けられ、従来の職員配置では利用者に対する平均工賃が月15,000円未満の場合は基本報酬がすべて引き下げられるという改定内容でした。この平均工賃月15,000円水準の事業所の多くは、障がいの重い人や精神障害



のある人、高齢の人など手厚い支援が必要な人たちを受け入れている事業所です。このような現状があるにも拘らず、その報酬を減らすことは、支援の水準を引き下げてしまうことにもなりかねないため、「工房みさき」においても慎重な対応を心がけていきたいと感じています。

さて、法人本部の重点的な取り組みの一つに、就労継続支援B型事業の工賃向上に向けた取り組みが位置づけられています。現在、①現状・事業動向の確認、②課題整理、③課題解決策の検討まで進捗しています。「工房みさき」の平均工賃の実績は、重度者支援体制加算分を含めて10,000円〜15,000円未満です。決して満足できる金額ではありませんが、一方では行政や保護者の方からは「個々に応じた個別支援が行えている」と一定の評価をいただいています。

目標として平均工賃月15,000円以上を目指しつつ、利用者が自分の意思決定で自分らしく活動できるよう寄り添った支援を展開していきたいと考えて

います。本年もご指導の程お願い申し上げます。

## グループホームみさき

◆主任 山口 真吾



新年あけましておめでとうでございます。

2024年元日には能登で大きな地震が発生しました。この出来事を通じて改めて防災への備えや、迅速な対応の重要性を再認識しました。グループホームにおいても、非常時の対応を強化し、利用者様に安心していただける環境を守るため、引き続き万全を期してまいります。

また、それ以外でもさまざま







出来事がありました。世の中では依然として物価の上昇が続き、生活における工夫が求められる一方で、福祉分野では支援体制の強化や効率化が重要な課題となりました。特に、地域社会との連携の重要性を改めて感じた一年でもありました。グループホームにおいても、こうした社会の変化に柔軟に対応し、利用者様にとってより良い環境を提供するための取り組みを強化してきました。

2025年は「中期計画（3年）」の最終年となりますので、事業計画にこの推進を掲げ、よりよい環境づくりに努めます。スタッフが少ない中でも一人ひとりの業務の質を高め、利用者様が安心して過ごせられるよう、昨年の反省も踏まえてしっかりとした体制づくりに取り組んでいきます。地域やご家族との連携を大切に、信頼される支援を提供できるよう精進してまいります。

結びに、本年が皆さまにとって健やかで充実した一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。今年もどうぞよろしくお願いたします。

## あいハート須磨

### 特養

◆ 部門長 原田 浩樹



新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願申し上げます。

旧年中は施設運営にご理解とご協力頂き誠にありがとうございました。

昨今、介護業界では人手不足が深刻な問題となっておりますが、今年度は団塊の世代が75歳以上の後



期高齢者に達し、超高齢化社会となることで引き起こされる社会全体の人材不足となる「2025年問題」の年に突入します。労働力不足や、保険料不足、医療においても従事者不足による医療サービス質の低下も懸念されています。このような中、厚生労働省から2026年に必要な介護職員が全国で25万人不足しているとの発表があり、あいハート須磨でも人材確保が急務とされています。

昨年からの離職防止への取り組みや多様な働き方を検討しながら「職員の満足度の向上」「ITCを活用した業務効率化」「長時間労働の抑制」など取り入れてまいりました。しかし、まだまだ課題が山積みで検討することが沢山あります。机上の話し合いでは解決出来ない問題も多々あり、何か手をつけて良いのか分らなくなってしまいます。人材確保が困難な理由として、「きつい・きたない・給料安い」と言ったイメージがあります。そのようなイメージを払拭し、社会に貢献する仕事であることをもっとアピール

すると共に、職員一人一人が「やりがい」を感じながら仕事をしなければならぬと思います。

介護とは利用者様・家族様との信頼関係のもと、人生の終末を迎えるための準備を協働して支援するという、重要で尊い役割を担うことができる仕事です。まずは職員が「やりがい」を感じることでできる職場環境を構築し、私たちが仕事を通じて専門職として成長しながら誇りを持って仕事ができるようになれば、やりがいや魅力をもっと発信していけるのではないかと思います。

今年、あいハート須磨は30周年を迎えます。節目の年になり、記念行事も予定しております。直前に迫っている問題を乗り越えて「雲外蒼天」を信じて少しづつでも前に進んで行きたいと思っております。

## デイサービス

◆ 部門長 仙波 剛



新年あけましておめでとうございます。



昨年は、「収支改善・黒字化」を掲げ取り組んでまいりましたが、感染症の流行が継続して発生し、稼働率回復の障害にもなってしまいました。当初の計画も足踏みしてしまう部分もありました。

今年は、昨年の未達成部分を達成できる年にすることを目標に、稼働率回復、収支改善に向けた取り組みを重要課題として、改善に向け取り組んで行く年にしたいと思えます。

また、ご利用者満足度向上に向け、現在のプログラムは継続しつつ、中止していた行事も再開できるように検討・計画もしてまいります。

ます。

そして、今年は開設30周年を迎えます。デイサービス部門においては記念イベント等の企画も行い、ご利用者、スタッフが共に盛り上がる内容で30周年を過ごしたいと思えます。

私自身も勤続30年を迎えます。開設当初の「介護方針」「志」をもう一度振り返り、日々のケアで取り組んでいきます。また、スタッフの間でも共有できるようにも努めて行きたいと思えます。

本年も宜しくお願い致します。

### 居宅介護 支援事務所



◆ 部門長 丸島 幸子

仕事もプライベートも充実できるような自己管理をしっかりとしていきたいと思えます。

◆ 部門長代理 橋本 裕弥  
苦手なことへのチャレンジとしてランニングを継続します。体重減量も図ります。

◆ 主任 菅家 妙子

公私ともに達成感を得られるような節目の年にしたいと思えます。

◆ 余田 恵

健康に気を付けて、「夢と魔法の王国」を目標に仕事に励みたいと思えます。

◆ 今城 ゆり

茶葉で入れた紅茶を楽しんだり、夕陽の沈む海をゆっくり眺めたり、スローライフを楽しみたいです。

◆ 浪江 知永子

日々の仕事がいやがるを持って



て行えるように、心の健康を第一にプライベートでの充電を心がけます。

◆ 毛利 芽衣

時間管理と体調管理に気を付け仕事と家事の両立ができるように頑張ります。

◆ 西中 志保

日々を楽しみを持ち、一つ一つ丁寧に取り組んでいきたいと思えます。

◆ 松井 栄子

健康に留意しつつ、目標達成と新しい事に挑戦する年にしたいと思っています。

◆ 大藤 孝子

好きなことを、楽しみながら行い少しだけ、嫌いなことをして、過ごしていきたいと思えます。

### あんしん すこやかセンター



◆ 部門長 柏木 照子

信頼されるセンターを意図し、笑顔と感謝、一期一会・繋がりを大切に、心豊かに進みます。





◆主任 大道 雅子  
みんなが元気に楽しく一年過ごせるよう、「無理をしない」を大切に職場づくりに取り組みます。

◆日和佐 祐樹  
守破離 今まで積んできた仕事の経験を元に、自分の持ち味を活かしていきたいです。

◆齋藤 知見  
心身の健康第一。仕事とプライベートの均衡をとっていききたいです。

◆立浪 雅美  
何事も楽しみながら取り組み、



笑顔で過ごせる一年にしたいです。

◆藤井 幸代  
日常を過ごせる事や周囲にいてくれる方への感謝の気持ちを言葉に出来るよう心掛けます。

◆篠崎 美菜子  
体調に気をつけながら仕事に適切な運動、リフレッシュタイムと上手に過ごしていきたいです。

◆平池 方子  
今できる最善の事を選択して干支にちなんですると進めるよう他力本願で頑張ります。

◆井上 久美子  
素直に謙虚に、毎日精進します。

◆森元 淳子  
免疫アップ生活継続中。会いたい人には会っておこう！行きたい場所には行っておこう！

## ◆厨房

◆部門長・管理栄養士 澤田 州子  
新年あけましておめでとうございませう。

年末にお節料理を準備しながら

ら、あつという間の1年だったなと感じました。

歳を重ねるごとに時間が早く過ぎる感覚を不思議に思い調べてみると、大人になり時間を短く感じるのには心の動きが少ないから、つまり『ときめき』が少ないからだそうです。

例えば子供と大人の食事の様子を比べてみると、子供は『どんな味？どうやって作る？』など、食事の中に発見や疑問があり心がときめきを感じます。かわって大人の場合は『ただ食事をする』、



つまり慣れた作業をこなすだけになり心は動きません。食事の時間が30分かかったとしても、子供の場合はその間に色々なことが起こるので長く感じ、大人の場合は食事しただけですから短いと感じる。生活の中にときめきが多いと過ぎた時間を長かったと感じ、ときめきが少ないと過ぎた時間が短かったと感じる。

ときめきを忘れた大人の1年はあつという間に過ぎるということだそうです。

あいハート須磨の毎日の献立は、慣れ親しんだ家庭料理を基本としており、繰り返し食べても飽きませんが、せつかくの1年あつという間に過ぎてしまっただけもつたいたいと思っていました。そこで、今年は食事から『ときめき』を多く感じていただけたよう、例年以上に新メニューや各地の郷土料理、季節料理などに力を入れ、「ときめきの多い1年だったな」と感じていただけたよう、厨房職員一同頑張っていきたいと思ひます。

本年もよろしくお願ひいたします。



## 脳梗塞 リハビリステーション 神戸須磨

◆センター長 伊藤 正憲

明けましておめでとうございます。

インスタグラムでの強みの発信が功を奏し、約2か月先までリハビリの予約が取れず、35名を超える利用者を擁するセンターとなった脳リハ。私1人の常勤で運営してきたこの2年間を振り返ると、我ながら「よくやったな」と、ふとそう思うときがあります。この経験は財産に変わり、乗り越えてきた高い壁はこれから脳リハを守る盾になるでしょう。

予約枠の拡充を踏まえると、人材確保はかねてよりの課題です。



た。しかし脳リハは、理学療法士の資格があれば誰でもよいという施設ではありません。脳卒中リハの高い臨床能力に加え、私が求める人間の総合力を兼ね備えて

いてほしいのです。この2年間、非常勤として臨床に携わってこれている小舟氏は、これらを満たした有能なPTです。そして、今年の4月より、常勤として仲間になってくれることになりました。

今年の干支は巳です。この巳の字は蛇の姿を表しており、蛇は脱皮を繰り返して成長することや、その生命力の強さから、「再生」「復活」「長寿」を象徴する縁起がよい生き物とされています。巳年にあやかり、今年の脳リハは、常勤2名の新体制で力強く邁進します。



## あいハート離宮前

◆管理栄養士 向井 美智子

### 新たな年

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

あいハート離宮前は、今年開設から13年目を迎える事となります。開設当初から管理栄養士として給食部門を担当し、離宮前らさを模索しながらの12年でした。おかげさまで食中毒などの事故もなく、厨房としても一定の評価をいただき感謝しております。

昨今の社会情勢から物価高騰、品不足、人手不足など、給食を取り巻く状況も厳しいものがあり日々大変ではありますが、様々な観点から取り組みを行いながらスタッフ一同頑張っている毎日です。

さて私事で大変恐縮ではございますが、今年度で無事定年退職を迎える事となりました。特別養護老人ホームあいハート須磨の開設2年目から勤務し、子育てや家庭との両立、資格取得の為に勉

強など多忙ではありましたが、労働環境も整っており、今日まで27年間好きな仕事を続けてこられたことを誇りに思います。皆様には感謝と共にお礼を申し上げます。

給食部門が新年度から新たなチームで新しいステージへ向かって邁進していけるように願っています。私も4月からは、新たなライフスタイルを大いに楽しんでいきたいと思っております。

あいハート離宮前、あいハート須磨が今後も末永く安定した存続と発展ができることを願うとともに、皆様の御多幸と御活躍を心より祈っております。



# 上肢へのアプローチが歩行の改善に 必須な脳出血右片麻痺のリハビリ紹介

◆ 脳梗塞リハビリステーション 神戸須磨  
センター長 伊藤 正憲

2024年1月15日に脳出血(右片麻痺)を発症された62歳男性のご利用者を紹介します。2/5に急性期病院から回復期病院へ転院。その後、約5か月のリハビリ入院を経て、7/1に自宅退院。かねてより当センターのインスタグラムをご覧になられており、退院される前の6/20に問合せをいただきました。7/25にリハビリ体験にお越しいただき、8/22より身体リハビリコースを開始しました。

まず、初めて来所されたリハビリ体験の日に聴取した情報と、身体機能の評価結果の特徴を挙げます。

①「杖と装具を使っても長い距離を歩くことができない」、「右腕と手が少しでも動くようになればうれし」という悩みや希望がある。

②上肢の麻痺が特に強い。腕と手の随意性はとても低く、表在感覚(触覚、圧覚)と深部感覚(運動覚)も鈍麻している。肩関節に1.5横指の垂脱臼があり、入院中も退院後も、上肢をアームスリングで懸垂していた。アームスリングを外しても、座位では麻痺手が常にお腹の前にあり、これに左手を添えて抱え込むことが習慣化している。手関節背屈の可動域は20に制限されており、手指には屈曲拘縮がある。上腕骨は内旋位にあり、脇を開くように腕を動かされることや、手がお腹の位置から離れていくことに慣れていない。

③体幹には前鋸筋と外腹斜筋に明らかな低緊張があり、麻痺側の側腹部は短縮位にある。一方で、麻痺側の腰背筋は高緊張。肩甲骨は翼状・下方回旋しており、肩関節の他動運動時に肩甲骨上腕リズムはうまく機能せず、屈曲は60で肩の前面に痛みを訴える。これまで

のアームスリングの継続的使用、可動域や筋収縮を改善するアプローチが十分でなかった影響も受け、ローターカフと三角筋も低緊張であり、大胸筋・広背筋・上腕三頭筋長頭は短縮している。

④下肢には大殿筋に低緊張と、腓腹筋に短縮を伴う高緊張を認める。股関節屈曲、膝関節伸展、足関節背屈の分離運動は可能で、収縮力は弱いながらもある程度の随意性がある。下肢装具(オルトトップAFO)を使われているが、装具を外して歩くことを目指しているレベル。一方で、装具を使ってきたことが影響し、膝伸展位での足関節背屈の可動域は5に制限されている。

この評価結果をもとに、アームスリングと装具を外し、麻痺の改善と動作練習をしていく方向性を提示しました。麻痺の強い上肢は、リハビリを続けても実用手レベルに至るのは難しいことを説明。一方で、歩くときの下肢の支持性低下や振り出しにくさの原因は、下肢の機能障害よりもむしろ上肢と体幹の麻痺にあり、歩行の実用性を上げるためには上肢へのアプローチの優先度が高いことも説明しました。

この記事で紹介するのは、11/14に実施した



写真1

14回目の120分リハビリです。リハビリ前にチェックした腕を前から挙げる運動と麻痺手でグーパーをする動きを(写真1)に示します。この動きから見取れる随意性の低さ(上肢の麻痺の強さ)をイメージして、この後の内容を読み進めてください。本記事のオリジナリティは、下肢のリハビリは全くしていないにも関わらず、上肢と体幹へのアプローチにより歩行が改善することです。



写真2

リハビリ前の歩行(写真2)は、歩行周期を通して麻痺側の肩が下がり、肘が曲がって手が太ももの前にあります。麻痺側の初期接地(initial contact: IC)の後、股関節屈曲モーメントを制動しきれず、荷重応答期(loading response: LR)から立脚中期(mid stance: MS)にかけて骨盤が前傾しています。このとき、麻痺側の側腹部の崩れもさらに強まります。MSt以降は、遊脚前期(pre swing: PSw)にかけて胸椎が屈曲し、体幹の前傾を伴って右下肢を離地しています。振り出した右下肢も膝関節を伸展しきれず、骨盤の左回旋を強めてつぎの初期接地へ移行しています。

## 【リハビリ介入】

### ① 肩関節の運動軸適正化とアライメント調整



大胸筋・広背筋・上腕三頭筋起始部に電動フォームローラーを当て、筋の伸長性を確保（写真3-1左）。胸鎖関節で鎖骨を後方へ長軸回旋させ、肩関節での上腕の挙上に際して肩甲骨が後傾・上方回旋できるように運動性を引き出す（写真3-1右）。伸長されて収縮機能を失ったローターカフに対し、上腕骨頭を関節窩に圧迫することで筋長が短縮する感覚を入力していく。



## ② 「上肢は長いものである」といつ身体認識の形成

ビー玉を入れたペットボトルを麻痺手に握らせ、ビー玉の動きを視覚と聴覚で確認させながら肘関節の屈伸運動を促通（写真4）。「肘が曲がり、手はお腹の前にあるもの」と身体図式化されている麻痺側上肢に対し、肘が伸びて手や指が体から遠くに離れても大丈夫であることを経験させる。この練習過程で「上肢は長いものである」という身体認識に変えていき、これを上肢屈筋群の高緊張の改善に繋げていく。



## ③ 前鋸筋・外腹斜筋の促通と肩甲帯の安定化

麻痺側の肩の亜脱臼、さらに現時点で獲得できている可動域の2つを考慮し、通常より肘支持の位置を

下げた「段違いパピロポジション」を選択。肘で支持面を押し付けながら胸をベッドから離させることで、前鋸筋と外腹斜筋の収縮を促す（写真5-1左）。さらに、関節窩と上腕骨頭のアライメントを適切に保ちながら、麻痺側だけで支える練習も実践（写真5-1右）。左上肢をリーチさせるなど、麻痺側の肩甲帯に高い安定性を要求し、ローターカフと三角筋の収縮も促した。

## ④ 手指伸展の促通と麻痺手の活性化

肩甲帯の持続的な安定化を狙い、段違いパピロポジションを保たせたまま、手のひらをしっかりと接地させて手指伸展の可動域を拡大（写真6-1左）。座位では前腕尺側支持と手の小指側支持を保ち、手の横アーチを形成していく過程で虫様筋や骨間筋の動きを活性化し、手指伸展を促通した（写真6-1右）。



## ⑤ 能動的触知覚の再学習

改善させた肘関節の屈伸運動や手の広がりを活かし、麻痺手で左肩から指先までを往復して撫でていく（写真7）。衣服の滑らかさやしわの厚みを探索させ、手のひらや指腹で感じる摩擦や形状変化を言語

化してもらい、能動的触知覚を再学習していく。このとき、撫でているところを自分の目でも確認させ、触知覚と視覚で認識している感覚に違いがあるかどうかを自己フィードバックさせた。

## ⑥ 骨盤前後傾と立位での麻痺側下肢への荷重

整えた麻痺側上肢のコンディショニングを適切に保ち、座位での骨盤前後傾を回復させ、麻痺側腰背筋の高緊張を改善（写真8）。立位では麻痺側下肢への荷重を回復し（写真9-1左）、片脚立位を取らせることで下肢の支持性を高めた（写真9-1中央）。さらに、腕をできるだけ遠くに伸ばし、両手で物を把持させ、これを保つたまま麻痺側下肢へ自分で体重をのせていく練習を回復した（写真9-1右）。

## ⑦ 歩行練習

改善させた上肢と体幹機能を、歩くときの下肢の振り出しや支持に繋げるため、上肢からハンドリングをして歩行練習を



践した(写真10)。リハビリ後の歩行(写真11)では、麻痺側の手がある位置が変わり、リハビリ前より胸が開いて肘の曲がりが増減していることもわかります。ICの後も股関節を伸展させて体重を前に移動して、脊柱を直立に保てており、振り出した右下肢も膝関節を伸展させることで歩幅を拡大できています。写真では伝わりにくいですが、歩行スピードが向上しました。

最後に簡単にまとめます。本ケースには、下肢の麻痺の問題はも



を実感されませんが、その効果は長く続きません。長い距離を歩けるようになりたい本ケースにとつて、それでは生活場面に繋がりません。

不思議に思われる方もいるかもしれませんが、歩行の改善に上肢へのアプローチが必須となるケースは珍しくありません。これを突き止められるかは、セラピストのスキルに左右されます。脳卒中例の麻痺は個別性が高く、10人いれば10通りです。それぞれの動作を観察し、仮説を立て、それを検証し、機能障害の問題点を順序立てて抽出できること。そして、その問題点に対して、バリエーションのあるリハビリができること。これが臨床能力の高さであり、脳卒中リハを専門とする当センターの強みです。

リハビリ内容を記事と写真で紹介しましたが、歩行の変化やリハビリ場面は、映像で見ていただく方が適しています。今回の120分リハビリも、ダイジェストでインスタグラムにリール動画で投稿しています。当センターのインスタから、(写真12)のサムネイル画像の投稿をタップして、ぜひ映像としてご覧ください。



### 《11月》

#### 寄付金

NTT労働組合 関西総支部 大阪南分会 様  
 NTT労働組合退職者の会神戸地区協議会 様  
 谷川 貴美子 様

(計3件)

#### 「皆様の声」受付窓口

全電通近畿社会福祉事業団では、社会福祉法第82条の規定に基づき、利用者家族の皆様等から「苦情」やご意見に適切にお応えするための体制をとっています。面接・電話・書面等のようなかたちでも結構ですので、遠慮なく、お気軽にお申し出ください。

- 愛の家 ..... 072-494-0123
- あいハート須磨 ..... 078-737-2525
- あいハート離宮前 ..... 078-731-2130
- 法人本部 ..... 06-6458-5723

#### 【発行】

社会福祉法人 全電通近畿社会福祉事業団  
 〒553-0003 大阪市福島区福島 3-1-73  
 TEL 06-6458-5723

Website <https://www.zendentu-kinki.jp>  
 Facebook <http://www.facebook.com/zendentukinki>  
 E-mail [jigyodan@silver.ocn.ne.jp](mailto:jigyodan@silver.ocn.ne.jp)

#### 【発行人】

理事長 橋本 寿樹

